

「住民と歩む保健師活動」が コロナから住民を守る

OB保健師のパワフル対談

コロナ感染で和歌山県の対策が評価されていますが、公衆衛生の第一線で長年活躍してきた保健所・市町村保健師4名の方に公衆衛生行政や保健師としての歩み、後輩へのエールなどを語っていただきました。聞き手は、研究所九鬼副理事長、大前理事です。

保健所が

再評価されている

大前：コロナ対策で和歌山県の対応が、ワシントン・ポストで「和歌山モデル」と評価され『住民と自治』10月号で高田県議が記事を書いています。評価は仁坂知事や野尻技監の奮闘によるものだと思うのですが、その感染対策最前線の保健所や保健師としてどんな活動をしてこられたのか、お伺いしたいのですが。

竹内：公衆衛生という言葉は、民衆の命を公が守るということ、と言われたのをすごく覚えています。今のこのコロナ禍の中で、保健所が再認識されている。NHKの番組『英雄たちの選択』で感染症の対談を観ましたが、保健所の価値が評価されていました。スピー

駐在制度が 保健所と市町村との 連携を深めた

ところに保健所はあるべきだというのが理解されてきていると思います。

船木：平成6年に保健所法から地域保健法に変わり、保健所の対人保健サービスが減らされてきました。対人保健サービスで、すごく活躍したのは、市町村駐在の保健師活動だと思うの。

吉田：農業改良普及員さんが駐在して成果を出している、県があまり準備もなしに昭和32年から保健師の市町村駐在制（駐在制度）が実施された。町村の受入れ準備ができていないに駐在したので反発も苦勞も多かったようです。全国的には高知や沖縄、香川などでも行われたようですが、和歌山は独自に昭和61年まで29年間行った。

船木：駐在制度見直し時の評価は、市町村とパイプができた、住民の声を保健所が吸い上げてくれた。県と

目次

「住民と歩む保健師活動」がコロナから住民を守る OB保健師のパワフル対談	1
白浜温泉の旅 心に残る旅について考えてみた 白浜温泉旅館協同組合理事長 紀州白浜温泉 むさし代表 沼田 久博	6
シリーズ「若者から見た現代社会」⑩ 変わらずとも歩き続けよう 和歌山大学 平見 眞由	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2021年4月号



保健師対談

市町村が一緒に住民の健康管理に力を尽くしたというものでした。行った保健師は、学校の先生は宿舍があるのに、民家の間借り、私は看護学校卒業と同時に清水町の分駐所へ行かされ大変だった。でも、保健所が、駐在保健師の言い分を聞いて業務も立てる、だから僻地健診ではレントゲン技師

からみんな現地に出ていて、それこそ、あぜ道で検診をやった。そんな経験があるから、保健所や保健師は住民に信頼されたと言える。このコロナでは歴史上、大事な活動であったような気がする。野尻技監の方針が全県に浸透し、市町村にも受け入れられ、仕事しやすいようになっていと思うの。私たちは住民に近いところで仕事をするようにと言ってきたが、それが生きていると思っています。駐在制廃止後数十年間が経過しましたが、市町村と保健所との染みついた関係があると思うのです。

吉田：知事からのメッセージのなかで、ヨーロッパとかほかの国にはない、日本の保健所は素晴らしい組織で、これでコロナ対策をやっているというように評価されていました。

船木：私も知事メッセージを見たのですが、保健所に関係するところがたくさん出てきた。それで、知事も野尻方式というのを非常に信頼している。最初の済生

会有田病院の感染を封じ込められた。それから、今も全部、追跡調査ができて、どこからどう感染経路があるというのをみんなの前で説明できる。説明が分かりやすい。

竹内：ウイルスのゲノム解析を用いた調査にも力を入れて、このウイルスがどこから来たかというのが分かるようにもしている。

保健所が減らされな かった要因

大前：地域保健法（平成6年）で、保健所は10万人に1か所から2次医療圏に1か所と設置基準が改悪され、全国的に半減したといわれていますが、和歌山は県の保健所は8か所から7保健所1支所とほとんど減らされなかった。その辺の理由や運動などもあれば教えてください。

竹内：毎年、保健師有志がつどい、悩みを話し合い勉強していた「自治体に働く保健婦のつどい」のなかで、厚労省から、突然出てきた

保健所の合理化問題を学習していく。そこから、組合、自治労やら、自治労連とも一緒にやっていくようになるのです。

船木：「自治体に働く保健婦のつどい」で学んだことを住民運動に伝えていった。サークル化してやってきた例えばスモン患者の会、森永の「ひかり協会」、難病患者の会、断酒会とか、私もいろんな団体の勉強会に行った。それが住民とともに歩む保健師活動で、大事なものでした。

竹内：自分らも反対運動をやった。保健所を守る署名のお願いに行ったり、何回も県へ話しに行き、看護協会を通して反対運動もした。私の職場に元大阪府の保健所勤務の人がいて、大阪の保健所どうなったか聞くと、半分になったと。大きな運動したけど食い止められなかった。府からの締め付けが厳しくやりきられた。今はえらいことになっていると聞いた。コロナで和歌山モデルと言われているのは、保健所が減らなかったから

と、その人も言う。和歌山で保健所がなんで減らされなかったかといえば、僻地というのもあるのじゃないか。それから大阪から見ると和歌山の保健所は住民との結びつきが強く感じたと云うのです。この間、例えば、森永ヒ素ミルクの問題でも、和歌山は先進的に運動を引っ張ってきた。難病でも、患者さんたちが医療費を公費負担にさせ、難病指定にさせる。精神の家族会の活動も頑張ってる。それから龍神などでは白蟻病・チェーンソーの問題、古座川流域の風土病とも言われた筋萎縮性側索硬化症（ALS）の問題に取り組んだりね。その頃は住民運動が活発で、保健所と関係があるって、保健所を無視できない状況だったのかなと。

船木：駐在制時代に保健所の医療計画を話し合うと、駐在保健婦のキャッチした住民の状況に沿った方針を出さざるを得ない。これをもってもらわないと困る。駐在保健師が地域の問題を提起すると、その頃は保健

憲法第二十五条

- (1) すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
- (2) 国は、すべての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

**これからの保健所と
保健師の在り方**

所もその方針を取り入れた。駐在の意見を聞いて、年間計画をつくり、移動保健所等地域に出る活動に取り組んだ。そういうことが住民の保健所への信頼を高めた。もちろん、僻地があるからそういう活動もしたというのがあるのだけど歴史的なものもやっぱりあると思う。

九鬼：保健所の存在意義を、国にどう認めさすか、自治

労連の政府交渉で、お金はあるが保健師等の正職員を雇わなくて臨時職員とか嘱託でやります。一時的なレベルで終わらそうとする。今改めて評価されている保健所の充実を、全国的な問題として、提起し運動していかないと。

竹内：保健所の役割、公衆衛生の原則をはっきりさせると、何となく保健所が形骸化されてきている。対人サービスが市町村に移されてから、公衆衛生に情熱を持ちやる気の所長が来ても、

やる気をなくして異動したり辞めていく先生も何人か知ってます。だから、元御坊保健所長の野尻技監はほんまにまれな人や。若い人が公衆衛生に興味と展望を持てるような状況を作らなければならぬと思います。

船木：保健所と保健師は、コロナに当たって、公衆衛生を直視しないといけないと思う。長期的な展望の下に、国を挙げて結核対策をやって克服した経験も生かさない。

竹内：社会福祉法人の精神障害者の授産施設で、県の家族会とも関わって一緒に研修会を開いたりしています。精神衛生も以前は、保健所が地域の精神障害者を把握し、担当者がデイケアをするし、点でいる家族や孤立している人を結びつけ、家族会をつくり支援していた。でも今は、保健所は家族会支援を中核活動として取り組んでいない。ひきこもり問題でも、保健所の問題意識は少ない。うちに来る海南海草で80人ぐらいの精神障害者で、精神保健福

社士のケースは何人かいるが、保健師が関わるのは本当に少ない。精神担当、母子担当、〇〇担当ってように決められているので、今の保健師は担当の仕事しかできない状況になっている。

船木：本当に視野の狭い保健師、地域をまるごと見ていくっていうのが少なくなっているからね。

竹内：保健師は事務的な仕事が多くなっている。

船木：地域保健法に改正されてから保健所は、外郭団体や企業も含めて民間に委託するのが多くなり、直接自分たちがする仕事が少ない。管理業務が多くなっている。事務作業に追われている。公衆衛生業務を改善させていけてないのが今の保健所だと思っています。

吉田：船木さんは結核対策で、検診や感染症対策をやっているから、コロナ対策で今の和歌山の対応は、感染症対策の基本的なことがしっかり取り組んでいると思うよね。

船木：野尻技監がやっていることは感染症対策で一番

大事な事です。結核の患者が菌出したら、調査に行つて、検査して、入院させて、生活支援をしてきた。だからそこへお金を出したら普通に出来ること。昭和40年代に保健師になった者は皆そんなに思っている。

九鬼：デジタル化とかいうことでもう、スリムにして、住民との関係とか煩わしいことはしないというね。首相自ら自助努力で、自分らで地域の問題を助け合えということになってきているからね。国の根本問題やと思う。

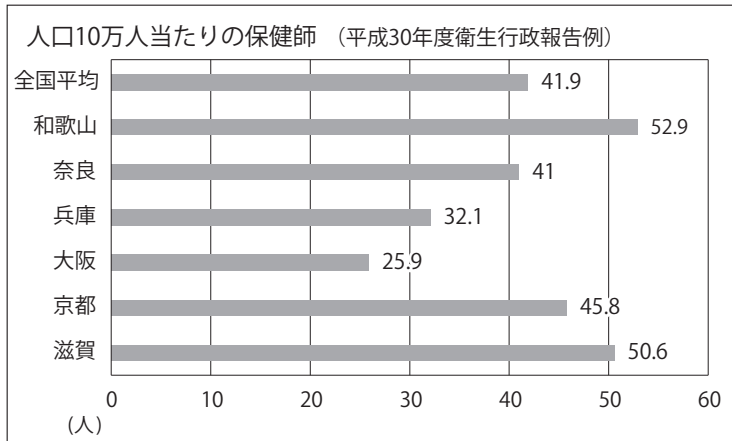
吉田：人や公費はできるだけ削減するという感じですけど来てるもんね。

船木：保健所が憲法第25条の規定から薄らいできている中で、職員たちはやっぱり住民運動に依拠していかないとあないかなと思ったりするけどなあ。これからっていうことに。

弓庭：看護学校で「高齢者の健康」っていうところを教えているのですが、その時代の中で、本当に必要な保健師としての教育を受け

てほしいと思います。市町村保健師になる人が多いと思うけど、住民と身近に接して、状況を把握して、保健師としてどうしていくのかという事を考えて、行政に反映させていくのが仕事だと分かってほしいなと思うんやけど。

竹内：私らが教育受けてきた保健師の仕事は、担当地域で、人口、高齢化率、疾病状況、出生状況とか健康にかかわる統計を集めて、地域にどんな問題があるか考えて、何年間か、こういう取り組みをするという方針を立て、保健所長さんに指導を受け保健師間で話し合っ、地域で取り組む。自分の担当地域のあらゆる健康問題に取り組む、責任を持つと、ゆりかごから墓場までね、それが保健師の基本的な取り組み方ですよ。でも、今は国からの法律でいっぱい、老人保健事業とか母子保健事業とか介護保険とか下りてくるから、市町村はそれを受け止めざるを得ないわけで、その部分部分の業務になっていつて、



保健師本来の仕事である、地域全体を見て、この地域に何が問題かということ把握できなくなっている。市町村の保健師がそうだから、指導・統括する保健所は、さもありなんという状況だということなんです。

弓庭：事例に関しては、点から面へとよく言いましたよね。1人の問題を、面、全体、地域にとらえて行つて、その1つの問題点として面に考えていくということ

とで。

竹内：例えば、健診で障がい児を発見する、それをそのまま個別指導したら点で終わるのだけでも、その人たちを集めて、会を開いてお母さんたちとお互いに情報交換をする場をつくる。子どもを集めて、子どもたちの中で育つ環境をつくる。そのことに予算を付けて制度化していくということが仕事なんです。それが高じて授産施設をやることになってるんやけども。

竹内：和歌山の場合はコロナの症状が出てなくても、PCR陽性の人はい入院させてる。これを一人一人説得して入院してもらう、それから追跡調査をするのも、大変なことやと思うのです。何日前はどこへ行って誰と会ったとかを聞くのだから保健師との深い信頼関係ができてこそだと思う。普通の職員が行ってもなかなか本音を言ってくれへんと思う。保健師が本当に活動していると思う。

船木：TVニュースで、岩出の保健所にね、紀の川市

の保健師が応援に来ていて、一緒に電話したり、一体になって活動している。保健所と市町村がスムーズにやっていたり条件があると思うんよ。

吉田：いくつかの保健所に勤務しましたが、保健所によって様子が違う。毎日のように市町村保健師が来る所と、そうでない所があるのよ。どうして来ないか聞いたら、市町村が困つてるときに、保健所が手を貸してくれなかったというんです。それから、相談しても駄目だとね、やっぱり躊躇なしに市町村の保健師さんが出入りできる保健所じゃないとね。

大前：和歌山のコロナ対策というのは、感染症対策では普通のことのように思いますよね。

船木：和歌山は感染症対策として当たり前のことやつて、全国的にも、もつと当たり前のことをしたらという感じがね、少なくとも私たちの年代の和歌山で働いた保健師は、みんなそんな風に思っているの

ではないでしょうか。

竹内：要するに、だから、全国的には当たり前のことをもうできなくなっている。

船木：和歌山の対応の成功は、野尻技監をキャップに置いて、緻密な調査活動の結果、食いつめられているということと、それから予防的検査がうまくできていることや。

吉田：症状がなくてもPCRをやれたもんね。

ーや民生委員、いろんな人呼びかけて、検討会を始めたんです。医師会の先生も、ほかの先生も呼んできたりして広がっていった、今まで何回要望しても増えなかった保健師が3人増員されたり、理学療法士の採用が実現したり、医師会からも働きかけてくれることで、要求が実現する経験をさせてもらいました。

船木：私たちが望むのは、保健師には、生活を見つめ、地域を大事にして地域に根ざした保健活動をしてほしいと思うのよ。これは市町村の仕事とか、保健所の仕事とか、そういう振り分け問題でなしに、生活を見るというのは総合的に捉えることだから、もう1回、原点に帰るということを大事にしてほしいと思います。

竹内：保健師も今の仕事は忙しいばかりでやりがいを感じられない、どんなにいいか分からないという人も多い。家庭訪問なんて、少し行かなかつたら、ものすごく億劫になると思う。新採の保健師が、家庭

大前：地域まるごと見ていく、そういう視点というのは、保健師さんだけでなく、自治体職員全体の課題だと思ふのですが、これらの課題とか、先輩としてアドバイスがあればお願いしたいのですが。

竹内：保健師は地域で組織化をする力を持っていると思うのよ。海南で介護保険が始まる前に、医師会の先生から在宅の寝たきりの人たちの問題で保健師に相談があつて、そこからヘルパ

生活を見つめ地域に根ざした保健活動を

訪問が一番しんどいって言う。そうだと思います。学校出たての保健師がいきなりいっぱい問題抱えてる家に訪問してどう対応しているかわからない。私も若いとき思いました、訪問する前もドキドキして、そんな中で鍛えられていく。成長していく。でも、今の保健師は、担当別に1つの事業をこなしていくわけだから、保健師が住民の生活を見る目が育たない。

九鬼：自治労連の全国公衆衛生集会の報告でね、最初は訪問しても嫌がられ、うるさがられ、なかなか心を開いて話してくれない。何回か行くうちに、この人は私のことほんまに思ってくれている、とひと言言ってくれた。それで保健師さんが、良かったと思ったと書いてある。そんなことが仕事の喜びにつながって、感動というか、仕事に誇りを持つと思うんやけど。

船木：そんな事は私らにもあって、支えられてきました。竹内：その経験がやっぱり

少ない、今の保健師。

船木：私は保健師のときにね、みんな今言うみたいに嫌みがられ、「うちは結構です」と言われたり、保険の勧誘と追い出されたり、いっぱいいたけど、そこで後押ししてくれる、支えてくれる人がいた。保健所の所長が「記録持つといい」と、保健師の記録を、医者がよく見てくれて、赤ペンで線引いてくれたりした、そんな時代もあった。責任負うから、やりなっていく後押しがあると思ってる。行けたんやけどね、それが業務が分散化して、後押しはほとんどないと思うわ、それが保健所の弱体化やと思うんやけど。

吉田：今言われたことね、御坊保健所で、野尻所長がいつもそれだった。責任持つからやりなさいって。もう何かあったら私が責任取るわと言ってくれた事がとても気丈夫だった。
船木：そういう意味では職員も職場を愛するのよ。したいことやる、したいことすると面白くなってくる。

自分の思いが成果として手応えがあると。私らそんなに、先輩に支えられてきたと思う、やってみなよと言うてくれて。

吉田：以前は、保健師の連絡会とか研究会とかで事例検討や相談支援があった。事例で、家庭訪問で、こんなので困っていますと云ったら、先輩からアドバイスあって、「こんなふうになよ」、「そんなことしてたらあかん」とか言われて、それなら、次こうしようと。その成果もまた持つていつて、喜び合う。

船木：問題を共有するというのが、保健所の機能やと思うのだけ。その後押しするとかそういうのがなくて、若い人たちは悩んだりしている。でも、そのままで終わってしまう。それがかわいそう。本当に仕事を愛するとか、仕事を理解する上ではね。そういうのがないから、しんどい思いをしていると思います。
九鬼：自治体の職員全部がそうになっているよ。パソコンばかり見て住民の方見ないとか言われるけど、住民と接して、喜び合うのがない自治体職員になってきている。されてきているというのか。

いとか言われるけど、住民と接して、喜び合うのがない自治体職員になってきている。されてきているというのか。

弓庭：町村合併で過疎地は行政サービスが弱体化して、保健師だけでなく、役場支所に職員がいらない。保健師は健診のときだけ来るので、どんな人かわからない。特に精神の人なんかは、ほとんど支援が届かない。職員もしんどいけども、住民の人らは、何もなくなったと言っている。保健所なんかもう遠い存在になってしまった。

九鬼：野尻技監さんの話がある。いろいろと出ましたが、公衆衛生業務や保健所を前向きな方向に改善させてきた、また、コロナ対策でも前面に出て奮闘されている。こうした前向きな方向をより広げていけるのか、そんなことをどうすればいいのか。ご本人の話も聞きたいよな。
吉田：野尻技監が感染症対策で保健所の役割の大切さや保健師の業務の大切な事など、全国に向けて発信し

てくれている事がとてもうれしいです。現場の保健師にとってもきつと大きな励みになっていると思います。

船木：保健所がこれ以上弱体化せんように、役割を果たせるように充実させる。具体的に知事に考えてと言っている。あかんわな。まだまだこれから野尻技監の現場での活動に期待したいです。

九鬼：本日は長時間にわたり経験豊かな皆さんのパワーあふれるお話を聞かせていただきました。コロナ対策は、医療やワクチンだけでは対応できません。行政の対応、経済対策、国民の協力和利害関係者の納得など社会をあげての対応になります。和歌山県のコロナ対策は、県、保健所、市町村、住民の信頼関係の上に築かれたものだと思います。これからも、今までの経験を生かして和歌山の公衆衛生や社会福祉の増進にご活躍されることをおねがいして対談を終わります。

白浜温泉の旅

心に残る旅について考えてみた

白浜温泉旅館協同組合理事長

紀州白浜温泉 むさし代表

沼田 久博



白良浜

コロナ禍で宿泊観光業への影響は大きく、県を代表する観光地の白浜も大きな打撃を受けています。白浜町温泉旅館協同組合理事長に和歌山・白浜の魅力について寄稿していただきました。

海の素晴らしさ

「地方創生」他の地方に真似のできない、和歌山は自然と共生した観光資源に集中した。

今の時代になつて変化が起きたのは、自然を求めて美しい空気やきれいな景色そういうものが見直されている。

和歌山の良さ、すなわち

都会にはない自然の素晴らしさや海の素晴らしさ。

吉野熊野国立公園が拡張された、和歌山県内の県立自然公園「熊野枯木灘海岸県立自然公園」と「田辺南部白浜海岸県立自然公園」を編入することで和歌山県の串本町から南部町にかけて、紀伊半島西側に大規模に拡張することになった。

白浜温泉の臨海エリアでは円月島への海蝕洞に夕日があるのを見たことのある方もいらっしゃると思うが、夕日と言うのはその日によつて空の色の海の色の明るさまた同伴者等によつては感じ方が違うものになる。

円月島の真ん前では白浜海底観光船グラスボートが運行している。ボートの底のガラスから海底観光ができる、サンゴや熱帯魚の生息、綺麗な海の中を楽しむ。

もつとアクティビティな

人にはシュノーケリングやダイビングも楽しめる。学習には京都大学水族館では周辺の海の生き物中心に展示と研究を進めている。

また番所山の周辺の磯でも生き物の観察は楽しめる。

番所山は公園になつていて頂上付近には南方熊楠記念館がある。

屋上に上ると高野山や熊野の山々が望めて素晴らしい景色が広がっている、「南方熊楠は知の巨人」とも言われ和歌山が産んだの博物学の巨星。

「奇跡の浜」と言われ、約1300年前の歴史において有間皇子の表現を借りれば「見るだけで癒される」と言われた石英でできた真っ白な白良浜ビーチがある。

ジオパーク

都会に暮らしているとジオ（地球、大地）を意識する事はあまりありませんが、



崎の湯

地方では暮らしや文化は地に支えられています。

大地の上にはしか人間は生きられないのですから当たり前のことですが白浜温泉内にも見草崎、千畳敷、志原海岸、シガラミ磯、白浜の泥岩岩脈、円月島、三段壁、保呂の虫食岩、日神社の津波警告版、日神社、白浜温泉、椿温泉、市江崎が「南紀熊野ジオパーク」のジオサイトの見所で旅人には非日常を感じるヒントがあるように思う。

世界遺産

熊野古道は、紀伊半島南部にある熊野の地と大阪や伊勢、高野及び吉野と結ぶ古い街道の総称で、「熊野街道」とも呼ばれています。熊野古道の中心は、大阪



円月島夕景

から和歌山を経て、田辺から熊野本宮に向かう中辺路。その他、田辺から海岸線沿いに那智へ向かう大辺路、高野山から熊野本宮へ向かう小辺路、吉野から熊野本宮へ向かう大峯奥駈道、伊勢と熊野速玉大社を結ぶ伊勢路など、いくつものルートがあります。

その熊野古道が、「高野山」「吉野・大峯」とともに、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されています。白浜町内では、草堂寺から富田坂（熊野古道大辺路）が世界遺産に登録されています。「富田坂」から日置の

「仏坂」、すさみ町の「長井坂」に続く大辺路街道のうち、自然と文化的景観が残された参詣道として、峠越えの尾根道や石畳道が世界遺産に登録されました。蟻の熊野詣と言う言葉があります。平安時代の頃、熊野に向かつて旅が盛んで蟻が道を行くようにたくさんの方が次から次に熊野に向かったのです。

熊野は辺境の山岳地帯にあるので道案内が必要とされ、その道案内を修験者が務めました。

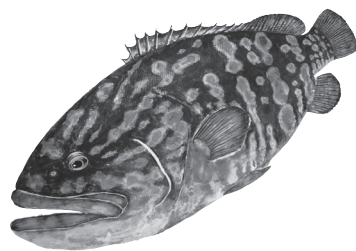
この道案内を先達と呼びましたが先達は道案内だけでなく道中の作法の指導も行いました。

観光とは光を観ると書きますが日本の観光の原点がこの熊野古道詣にあり歴史から学ぶことができます。

食文化



白浜温泉は紀伊半島の西側に位置し黒潮に泳ぐ魚やリアス式の磯に住む魚介類、山の幸や地の産物が豊富な土地で地産地消にこだわっ



クエ

た旬の産物があり、中でも幻の魚クエを食べることができます。

「紀州本九絵」は和歌山の宝と思われていて見かけとは違い、脂ののった美しい白身は、上品で深みのある味わいがありコラーゲンがたっぷり含まれていて一度食べると忘れられない味と言われています。

お造り、鍋などの定番料理から各旅館の調理長が腕を振るった創作料理も楽しめます。餅のようなモチモチした食感の鰹を「餅かつお」と言われています。

米国のハワイから伝わったケンケン漁で鰹を丁寧一本一本釣る漁法で鮮度が大事です。

魚ばかりではありません、和歌山県南部の熊野地方で

昔から飼われていた和牛を品種改良した「熊野牛」和歌山県特産の高級和牛で肉質はきめ細やかで柔らかで甘みのある味わいで肉そのものの風味に優れています。焼いたときの香りの良さも魅力。いろいろなお料理でその魅力をご堪能下さい。

温泉



飛鳥、奈良朝の時代から「牟婁の温湯」「紀の温湯」の名で知られ、斉明、天智、持統、文武天皇をはじめ多くの宮人たちが来泉された1350年余りの歴史をもつ温泉です。

現在の白浜温泉ではそれぞれの施設が競って快適に温泉を利用できるようにいろいろな工夫を取り入れて進化し続けています。

最近の話題は露天風呂から1歩進んで展望の開けた大変眺めの良い温泉が人気ですが、貸切風呂といったプライベートで楽しめる温泉も人気です。

また部屋に温泉の付いている客室も人気です。

白浜温泉には足湯もたくさんあり円月島の見える足湯など白浜温泉ならではの楽しみます。

このように白浜温泉の持つ魅力をお話ししてきましたがそこには国や和歌山県、白浜町の行政や先人のひたかたならない努力と地域住民の皆さんの協力とがあつてこうして成り立っています。

一例を挙げるとビーチクリーンや街をきれいにするボランティアの皆さんの努力。そして海水そのものを言うならば私自身感じることもですが、昔の海水よりも今の海水の方がきれいに思えます。

田辺湾では材木の置き場がなくなったことや養殖の魚の餌が変わって、ヘドロがなくなったこと、また白浜町には公共下水ができて海水の透明度も上がってきているように思います。

このように地域が一体となり自然と共生した観光資源としての地方創生が少しでも旅人の心を掴むことができれば幸いです。

シリーズ「若者から見た現代社会」⑩

変わらずとも歩き続けよう

和歌山大学 平見眞由



平見眞由氏

昨年2月号から「若者から見た現在社会」というテーマで、10回に渡って寄稿いただきました。「楽しみにしている」と読者からの声もいただき、若者の真摯で率直な記事は読者を励ましたと思います。平見さんにお礼を申し上げ、今後のご活躍を祈願します。

住民と自治で文章を書かないかと声をかけられてから、約一年が経った。本シリーズは今回で一旦区切りとなる。飽き性の私が一年もこのシリーズを書き続けることができたこと、そのことについて協力してくれた方に感謝したいし、また何の実績もないただの大学生の私に原稿を書かせてくれた方たちに、読んでくださった読者の皆様に、心からお礼を上げたい。

この一年で、私の人生はかなり大きく変わった。何の因果か社会問題を研究するサークルに飛び込んで、署名活動を初めてやって、新聞やテレビの取材を受けた。議員の方と話したのも初めてだったし、細かい部分だと私がまさか自分から自主ゼミを作ることになるなんて思ってもみなかった。その時々で私自身が得た経験や、素敵な（という言葉では言い尽くせないほど素晴らしい）仲間たちとの出会いについて思い返すと、感慨深いのを通り越してなぜか泣きそうになる。

また、特に政治に対する私の意識は、一度がらっと変わったというより一年中変化していた。この連載が始まった頃は政治に対して完全な無知だったので、何年前かの大きな事件（安保法制など）についても新鮮な驚きが絶えなかったし、怒り狂って毎日しんどいくらいだった。とにかく何か変えなければと、SNSで政治的発言をしたり、色んな所で署名しまくったものこの時期だ。学費の署名活動に飛び込んでからは、自分たちや他の苦しんでいる学生の声が全然届いて欲しいところに届かず、政治って何なんだと打ちひしがれた。一旦ここで政治に対し絶望感を覚えたが、なんとかその後立ち直った。過去の原稿で書いた通りだ。

そして今、私はあまり驚かなくなっている。オリンピックのこと、「自助・共助・公助」のこと、生活保護のこと、挙げればキリがないのだが、色んなことに對して「またか」と思い始めている。それはものすごく危険なことだと、私自身そう感じる。

ちょうど首相が変わった頃だったと思うのだが、「安倍政権の一番の罪は、無能でも総理でい続けられると証明してしまったことだ」のようなツイートをSNS上で見かけたことがあった。倫理に基づき、安倍さんに「無能」というレッテルを貼ろうとはさすがに思わないが、その人の言いたいことは私も理解できる。政府がどんなにとんでもないことをしても、あまり批判を受けないのが今の日本社会だ。そんな社会に、我々は少し飽き飽きしている。自戒のためにもう一度言うが、それは本当に危険なことだ。

私たちは少し気を抜くと、このおかしな社会にすぐ適応しそうになる。だから「またか」と思っても、しつこく批判を続けることが大事なのだと、私は今そう思っている。このシリーズを書くことによって、まさに私はしつこく権力を批判する機会を得た。その意味でもう一度、連載させてくださった方たちに「私の批判力と呼び起こしてくれてありがとう」と言いたい。そして、私の拙い文章が、これを読んでくださった皆さんの皆様の「まだ社会が変わらずとも、政治に絶望はしない」という気持ちを少しでも喚起するようなものになっていれば、それ以上の喜びはない。